静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

発行日　平成２９年１１月１日
担　当　掛川市 幼児ことばの教室

会　報

第５２６号

〈掛川教室〉
電話(0537)24-2881 FAX(0537)24-2933
〈大東教室〉
電話(0537)72-5617 FAX(0537)72-5617
こども発達センター めばえ
電話(0537)23-2312 FAX(0537)23-0008

❀掛川市　こども希望課長　松浦大輔❀

掛川市幼児ことばの教室は、掛川教室、大東教室の２教室となっています。掛川教室は、市教育センター内に、昭和63 年４月「幼児ことばの教室」として開設し、平成 20 年 10 月、掛川市北部に位置する総合福祉センター内に移転しました。大東教室は、平成 15 年４月、掛川市南部に位置する大坂幼稚園の空き教室を利用して開設しました。職員体制は、掛川教室４人（発達相談員１人、指導員３人）、大東教室３人（発達相談員１人、指導員２人）の７人となっています。

ことばの教室では、言葉が少ない、幼児言葉になったり発音の誤りがあったりするなど、ことばに問題がある場合や、コミュニケーションが苦手で人との関わりがスムーズにできない場合に、幼児と保護者に教室に通級していただき、指導、助言を行っています。また、各園だけでは、対応の難しい発達に問題のある幼児に対応するため、発達相談員を配置し、幼児の発達の度合いを明らかにし、各園や保護者への助言、指導を行うとともに、関係各課や療育機関との連携を図っています。

掛川市では、子育て支援を今年度の主要課題と位置づけ、心豊かでたくましい子どもを育成し、子育てしやすい環境づくりを進めています。ことばの教室においても、保護者との連携を密にし、より一層の支援に努めていきたいと考えています。

❀こども発達センターめばえ・みなみめばえ療育支援課長　吉井桐子❀

当施設は、東遠学園組合（掛川市・菊川市・御前崎市・森町・浜松市旧春野町の一部事務組合）のなかの乳幼児期の療育施設です。発達に心配のあるお子さんが毎日通園・親子通園・並行通園・ことばの教室の様々な事業に応じて、「遊びを通してキラリ輝く、一人ひとりが主人公」をねらいに支援しています。そして、御家族の皆さんが子どもを理解し、安心して子育てをしていけるよう、一緒に考え歩んでいます。また保護者同士の交流を通して仲間づくりを大切にしています。

掛川市
幼児ことばの教室

現在、幼児ことばの教室には、掛川教室９２名、大東教室５２名の幼児が通級しています。指導形態は〈個別〉と〈グループ〉がありますが、近年は発達障害が疑われる児が増加傾向にあるため、グループ指導が増えています。

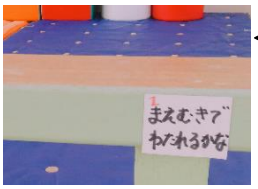
グループ指導では、対戦ゲームや協働遊び、ことば遊びなどを通して、友達を意識し、かかわりを楽しむことや、誰かと一緒は心地良いな、と感じられるような指導を心掛けています。

保護者に支援が必要なケースも増えてきました。保護者の悩みや、不安な気持ちを受け止め、我が子を“かわいいな”と思える瞬間を一緒に見つけていくことを大切にしています。

教室の様子

明るく広い、自慢のプレイルームです。
ここでも、遊びながらルールを学んでいます。時には、保護者の方も交えて、フルーツバスケットやドンじゃんけんなどを、指導の一環として行うこともあります。

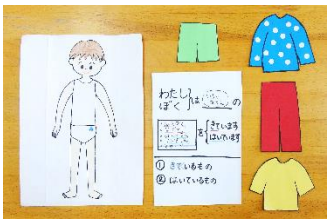
プレイルームの遊具にはこのような札が付けてあるものがあります。



← 平均台

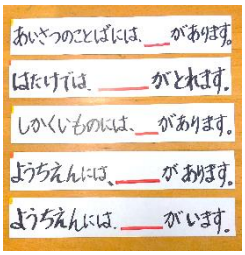
親子で遊ぶためのヒントにしてもらったり、サーキットのようにして遊ぶ中で、数字に興味を持ったりしてもらうことがねらいです。

トランポリン→



色と形の組み合わせをよく聞いて、服を選び、着せます。

教材紹介



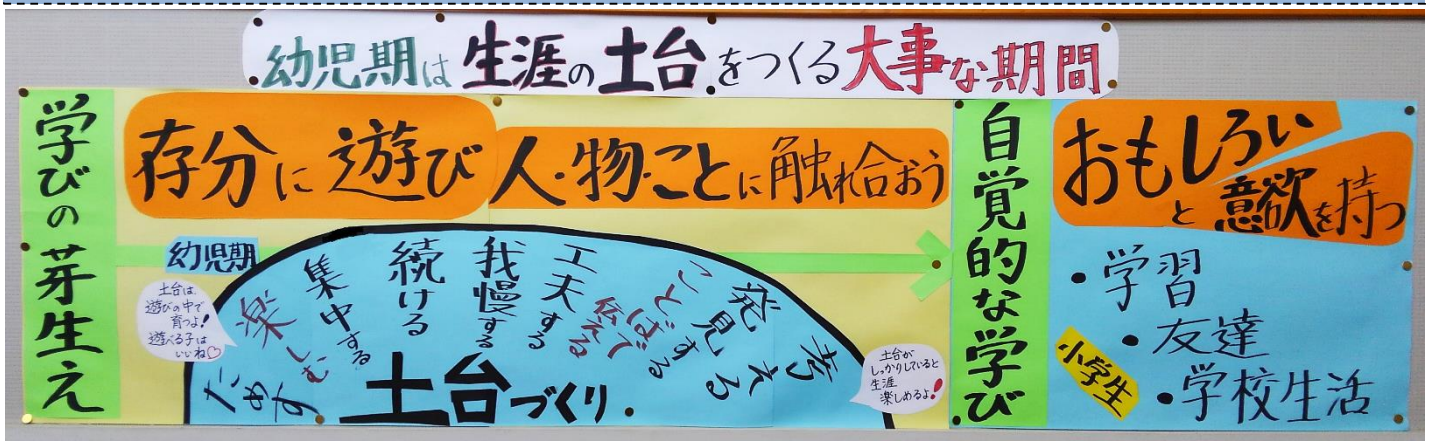
空欄に当てはまる言葉を言います。

〈通級につながるまで〉

○４歳児一斉ことばの検査　年中時の１月・２月
- 構音障害　※幼児音（サ行・ザ行・ラ行・ツ音）は経過観察
- 言語発達遅滞
- 吃音

○５歳児ことばの再検査　※幼児音も通級対象
○在園発達支援児保育指導委員会（巡回相談）
○幼児相談
○個別相談（徳育保健センター）

保護者への啓発目的の掲示



参考資料：園の遊びがもたらす幼児期の「学びの芽生え」無藤隆（白梅学園大学子ども学部教授）・秋田喜代美（東京大学大学院教育学研究）

めばえの給食

めばえの給食は子ども達の姿に応じて、胃ろう食・ペースト食・マッシュ食・普通食と様々な形態を提供しています。ST は順番に各クラスを回りながら、子ども達の食事の様子を確認し、支援方法を考えています。嚥下の機能面だけではなく、過敏さや心理面、偏食、社会性の特性も考慮した上で、どの食形態をどのような介助方法で提供すれば子ども達が今の段階で、最も食事が楽しい時間になって次のステップへ進んでいけるかをクラス職員や栄養士と日々連携しながら考え、取り組んでいます。

＜マッシュ食＞

ペースト食の練習を積んで“ゴックン”が上手になった子ども達は、次の段階として押しつぶしの練習をしていくためマッシュ食を提供しています。マッシュ食は舌で押しつぶせる固さにしています。また、粒の大きさや、ベタつき等それぞれの子ども達の姿に合わせて調理をしています。

＜普通食とマッシュ食半分ずつ＞

押しつぶしの段階から今度は少しずつ噛む練習をしていく子ども達はマッシュ食と普通食を半分ずつ提供しています。またその日のメニューに合わせてマッシュにしたり、そのままの形態で提供したりを ST と調理で毎日連携して決めています。

＜普通食＞

子ども達の健康や食べたい気持ちを育てる事を大切にし、献立や色彩などを考えて調理しています。

＜この日のメニュー＞
冷やし中華、温野菜サラダ、
たけのことあらめの煮付、
アシドミルク、オレンジ